

琵琶湖・瀬田川の水質概況速報(平成 20 年度第 3 四半期)

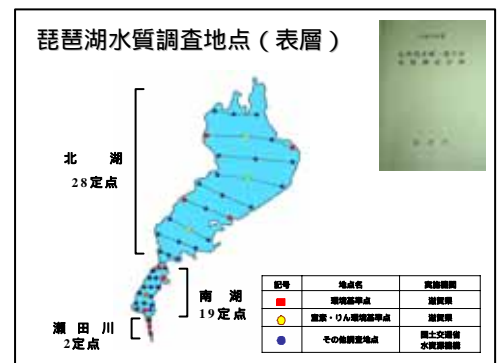
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第 16 条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき琵琶湖および瀬田川で、採水、水質分析を実施しています。このたび、平成 20 年度第 3 四半期分について水質概況速報がまとまりましたので、水質概況報告します。

なお、琵琶湖・瀬田川水質は、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値が、後日、修正を加えられる可能性があることをご了承ください。

調査方法について

北湖 28 地点、南湖 19 地点、瀬田川 2 地点の計 49 地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所と当センターで協力、分担し表層 0.5m での毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の北湖深層部における水深別調査は、当センターでは今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約 90m 地点今津沖中央(通称「17B」)において、月 2 回実施しています。



調査結果について

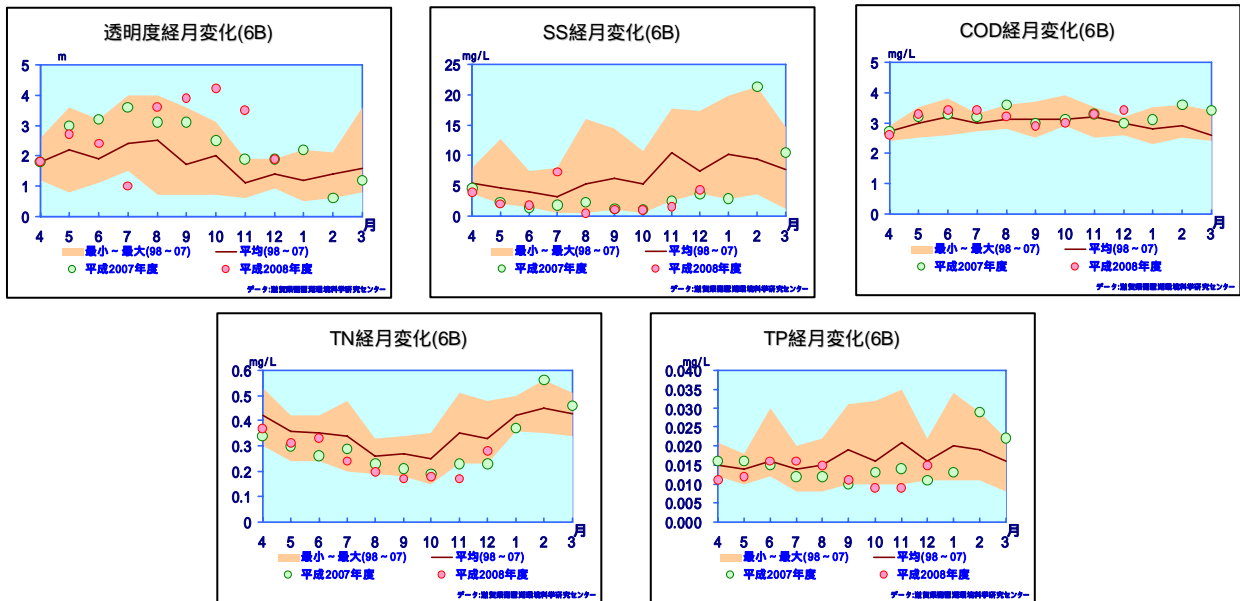
琵琶湖北湖の代表点として 17B、南湖の代表点として唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成 20 年度第 3 四半期までの水質概況はつぎのとおりです。

唐崎沖中央調査結果

透明度については、気象条件、水草の繁茂状況等の影響を受けやすいため昨年度の経月変動と異なった動きを示していますが、7 月は粒子状物質(SS)の影響により、過年度(過去 10 年間)最低値を下回りました。8 月から 11 月までは過年度に比べ高めに推移していましたが、透明度に影響を与える SS の推移を見ると、同時期には SS が過年度に比べ低い傾向が見られました。

有機物指標である COD については、12 月には過年度最高値より高い値でしたが、ほぼ過年度平均並の値で推移しています。

富栄養化項目である全窒素、全りんは 4 月より過年度並から低めに推移していましたが、秋季には過年度最低値より低い値を示す月もありました。

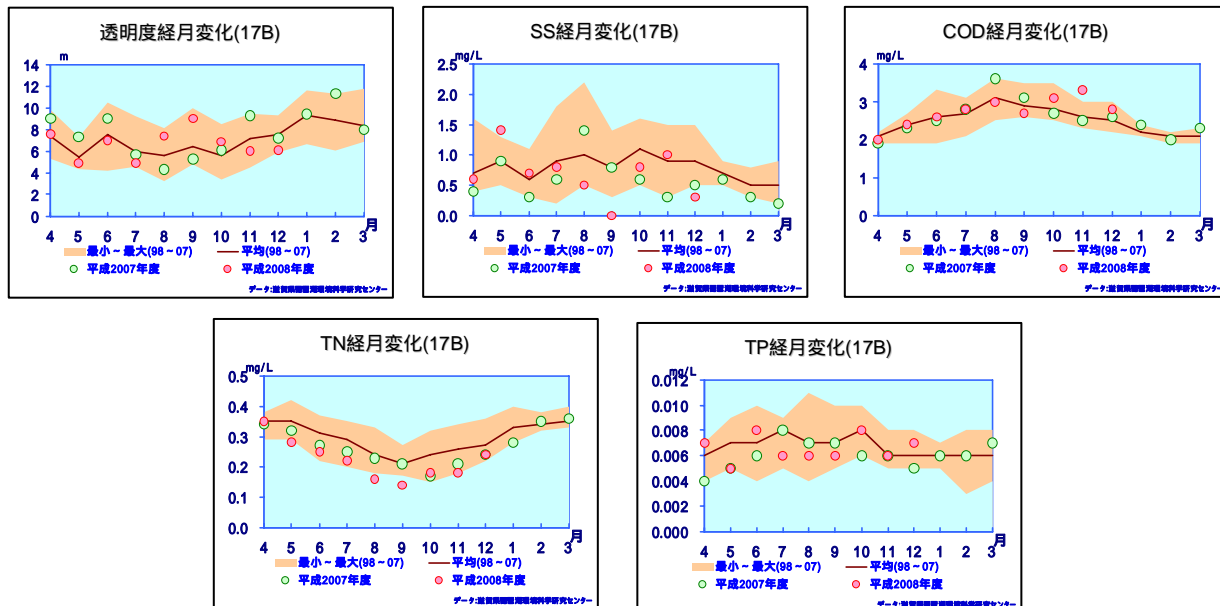


今津沖中央調査結果

透明度については、気象条件等の影響を受けやすいため昨年度の経月変動と異なった動きを示していますが、過年度並の値で推移しています。SSの推移と比較すると、南湖と同様に透明度とSSは連動した推移が見られました。特に9月、12月のSSは過年度最低値より低い値でした。

CODについて、11月には過年度最高値より高い値でしたが、ほぼ過年度並の推移を示しています。

全窒素は過年度平均値、昨年度より低めに推移しています。また、全りんは過年度並の値で推移しています。



さらに詳しいデータはこちらから検索できます。 <http://www.lberi.jp/root/jp/22db/bkjindex.htm>

《問い合わせ先》

〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学センター

環境監視部門 水圏担当

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: dc31400@pref.shiga.lg.jp